

令和6年度 学校評価書

松前町立岡田小学校

【評価基準】 A:80%以上達成 B:60%以上達成 C:60%未満

【アンケートの評価規準】◎:80%以上が肯定 ○:60%以上が肯定 △:60%未満が肯定

| 項目           | 小項目(重点目標)   | 設問番号  | 評価指標及び目標値   | 評定  | 学校による考察・改善方策   | 評価資料  | 評価           | アンケート結果 |     |     |     |    |
|--------------|---|---|---|---|--|---|--------------|---------|-----|-----|-----|----|
|              |   |   |   |   |  |   |              | 肯定      |     | 否定  |     |    |
|              |   |   |   |   |  |   |              | 1       | 2   | 3   | 4   |    |
| よく考え、よく学ぶ子   | ○生きて働く知識と技能<br>○思考力・判断力・表現力<br>○主体的・対話的で深い学び  | 1   | 児童が目当てをもって主体的に学習に取り組む指導や特別支援教育の視点に立った指導を行い、分かる楽しい授業を心掛けた。<br>目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2) | A   | ○設問1では、昨年度から保護者・児童・教職員(以下、三者)とも肯定率が上昇しました。国語科を中心に研究を進め、主体的・対話的で深い学びへと学習を展開する努力をしている。児童の1/7が、学びの楽しさを味わえていないという結果を真摯に受け止め、引き続き個に応じた学びを模索していく。  | 教職員アンケート  | ◎            | 14%     | 82% | 4%  | 0%  |    |
|              |   | 2   | 学力の定着を目指し、思考力・表現力の育成や基礎・基本の理解を図ることに努めた。<br>目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)                   | A   | ○設問2では、昨年度とほぼ横ばいである。日々の授業の工夫と継続的な家庭学習の取組の効果が表れているものと思われる。とはいえ、昨年度と同様に約20%の児童が「分からない」と回答していることを受け止め、更なる授業改善を図りながら、学級担任や専科教員が協力して、個に応じた丁寧な指導・支援をしていく。  | 児童アンケート   | ◎            | 46%     | 41% | 10% | 3%  |    |
|              |   | 3   | 家庭と連携し、家庭学習が身に付くように努めた。<br>目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)                                   | A   | ○設問3では、児童・教職員が昨年度から上昇し、保護者は横ばいであった。課題の与え方を工夫したり児童が学習に取り組む意識を高めたりしながら、引き続き、学校と家庭が連携して見届けを行い、適切な学習習慣の定着を目指していく。  | 保護者アンケート  | ◎            | 39%     | 59% | 2%  | 0%  |    |
|              |   | ※は教職員のみへの働き方に関する設問                                      | ※   | 実効性のある業務改善に取り組み、児童一人一人に向き合う時間の確保やワークライフバランスに努めた。  | A  | ○昨年度から25%上昇し、業務改善と教職員の意識改革の成果が表れている。今後も、「勤務時間と職務の縮減」と「教職員としてのやりがいの維持」のバランスを取りながら、業務改善の努力を続けていかなければならない。   | 教職員アンケート     | ◎       | 31% | 59% | 10% | 0% |
|              | 思いやりのある子  | ○認め合い、支え合い、高め合う集団<br>○いじめを許さない子どもと教師<br>○人権・同和教育、特別支援教育 | 4・5   | 家庭・地域と連携して心のこもった挨拶ができる児童を育てることに努めた。<br>目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)                     | A  | ○設問4の三者とも上昇し、設問5は、児童は横ばいであったが、保護者がわずかに減少している。挨拶については、運営委員会や6年生有志による呼び掛け、教職員の指導等を積極的に行った。地域の皆様への挨拶をより積極的に行うよう、声を掛けていきたい。                           | 教職員アンケート     | ◎       | 27% | 60% | 13% | 0% |
|              |   |   | 6   | 学級・学年などの活動を通して、認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを推進した。<br>目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)                | A  | ○設問6と設問7では、三者とも上昇した。全体的に肯定的な回答が多く、個々に様々なトラブルや悩みを乗り越えて学校生活を送っている様子がうかがえる。学年の発達段階に合わせてケースバイケースで指導・支援をしており、引き続き保護者の皆様との連携で解決し、子どもたちのよりよい成長につなげていきたい。 | 児童アンケート(家族)  | ◎       | 64% | 30% | 5%  | 1% |
|              |   |   | 7   | 人権・同和教育、特別支援教育の視点を根底にして、教育活動全体を通じて、豊かな心をもった児童を育てるようにした。<br>目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2) | A  | ○設問8では、昨年同様9割以上の保護者の方々が、学校での子どもの学びを肯定的に捉えていることが分かる。保護者の方々の学校教育に対する協力的な姿勢が、子どもたちの成長に大きく寄与していることに感謝するとともに、引き続き家庭と学校とが連携していければと思う。                   | 児童アンケート(地域)  | ◎       | 74% | 20% | 5%  | 1% |
|              |   |   | 8・9   | 児童・保護者が相談しやすい体制を整え、いじめ・不登校・非行問題などへの積極的対応を心掛けた。<br>目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)          | A  | ○設問9(心配なこと)では、昨年度とほぼ横ばいであった。1クラスにおよそ4、5人が「心配ごとがある」ことになり、その内容や経緯は様々である。学級担任は、一人一人の児童としっかり向き合い、個に応じた対応に引き続き努めていきたい。                                 | 保護者アンケート(家族) | ◎       | 40% | 51% | 8%  | 1% |
|              |   |   |   |   |  |   | 保護者アンケート(地域) | ○       | 37% | 41% | 18% | 4% |
|              |   |   |   |   |  | 教職員アンケート  | ◎            | 31%     | 62% | 7%  | 0%  |    |
|              |   |   |   |   |  | 児童アンケート   | ◎            | 51%     | 42% | 5%  | 2%  |    |
|              |   |   |   |   |  | 保護者アンケート  | ◎            | 52%     | 45% | 3%  | 0%  |    |
|              |   |   |   |   |  | 教職員アンケート  | ◎            | 30%     | 70% | 0%  | 0%  |    |
|              |   |   |   |   |  | 児童アンケート   | ◎            | 69%     | 27% | 4%  | 0%  |    |
|              |   |   |   |   | 保護者アンケート   | ◎   | 55%          | 44%     | 1%  | 0%  |     |    |
|              |   |   |   |   | 児童アンケート(楽しさ)   | ◎   | 67%          | 26%     | 4%  | 3%  |     |    |
|              |   |   |   |   | 保護者アンケート(楽しさ)  | ◎   | 47%          | 45%     | 7%  | 1%  |     |    |
|              |   |   |   |   | 児童アンケート(心配ごと)  | ◎   | 63%          | 21%     | 11% | 5%  |     |    |
|              |   |   |   |   | 教職員アンケート(相談体制)   | ◎   | 31%          | 66%     | 3%  | 0%  |     |    |
|              |   |   |   |   | 児童アンケート(相談体制)  | ○   | 51%          | 22%     | 13% | 14% |     |    |
|              |   |   |   |   | 保護者アンケート(相談体制)   | ◎   | 42%          | 53%     | 4%  | 1%  |     |    |
| 学校関係者評価委員の所見 | <p>○楽しく分かる授業では、児童と教職員との間の差が気になる。<br/>○学ぶ力を付けること、こつこつとたゆまぬ努力をすること、家庭との協力、様々な様相が必要だが、先生方はよくがんばっている。<br/>○学びを楽しみ、家庭学習の大切さ、学校の協力支援も必要である。<br/>○タブレットを使った授業、英語の授業など、今にあった教育がなされ、子どもたちも健やかに生き生きとしているように見える。<br/>○家庭学習について、時間より中身・内容だと考える。集中力とその習慣性が大切と思えるので、ただ時間をこなすことより視点を変えて判断してほしい。<br/>○放課後子ども教室の迎え前のわずかな時間にも宿題に取り組む姿に、家庭学習の大切さを指導されていることが分かった。<br/>○挨拶はできていると思う。<br/>○朝、見守り隊で通学路に立っているが、挨拶ができていない子、できる子の差がある。<br/>○挨拶は、子どもたちの方から望まれるが、家庭、地域、学校とも、まず大人が先取りし、手本を見せるべきだと思う。<br/>○見守り隊・地域の方への挨拶で子どもたちの意識が高いのは、児童も受け入れてくれていてうれしい。<br/>○朝の登校時、見守りをしているが、高学年の児童が低学年への優しさを感じる。挨拶もよくできている。<br/>○集団登校の際、上級生が下級生の様子を注意して見ている。児童が見守り隊の人へ元気に挨拶している。<br/>○思いやりの心が醸成されていることを実感した。<br/>○今も昔も変わらないもの(人間関係や、特に人への思いやりへの思いやりなど)は、主に家庭環境から育てていくように思う。大きな事は言えないが、これからもできる事はお手伝いしていこうと思っている。<br/>○保護者や教職員の認識よりも悩みを抱えている児童が多いことが気になった。<br/>○子ども自身の中に心配ごとがあっても、それを十分に表現できずに抱え込んでしまったり、家庭内でもどう解決していいのかわからず、表面化していなかったりするものが多いのだろうか。</p> |   |   | 学校の対応   | <p>○本校では、国語科を中心にして、的確な読み取りや豊かな語彙力を基に、自分の考えを形成する力を育む研究を進めてきた。研究内容を日々の授業に落とし込み、全員の児童にとって「楽しく分かる授業」を目指して取り組んでいきたい。</p> <p>○学級担任はもとより、児童の教育に携わる全教職員が、それぞれの立場を生かして、児童の健全育成に関わっていく。加えて、家庭や地域との具体的で実のある連携を充実して、それぞれの役割を自覚しながら一体となって健全育成を引き続き推進していきたい。</p> <p>○本校が行っている「♥岡小プロジェクト(アイラブ岡小プロジェクト)」の中の一つに、「広げよう挨拶の輪」を掲げ、毎朝の正門での挨拶運動などに取り組んでいる。校内だけでなく、登下校においても、多くの児童が元気で気持ちのよい挨拶をしているが、より多くの児童が見守り隊の方々や旗担当の保護者の皆様などへの進んで挨拶できるよう言葉掛けをするとともに、教職員がその手本となるようにしていきたい。</p> <p>○「♥岡小プロジェクト(アイラブ岡小プロジェクト)」では、「増やそう、違う学年の友達」として縦割り班での毎日の清掃活動や月に一回の遊びをしたり、「友達のキラリ発見」として友達のいいところ探しの活動をしたりしており、引き続き思いやりの心を育てる取組を進めていきたい。</p> <p>○近年、児童や家庭が抱える問題や悩みも多様化している。学校としての役割を再認識し、地域や他の相談機関とも連携しながら、きめの細かい対応をしていきたい。</p> |   |              |         |     |     |     |    |

